



右から稲葉さん、石原さん、小笠原さんと姉帯館長

News +

ヤングボランティアSEED
が図書館に本を寄贈

有志の高校生が活動する「ヤングボランティアSEED」が市立図書館に本を寄贈しました。本はメンバーが選んだ地政学や戦争などがテーマの漫画24冊、約2万円分。これまでの活動で集めた資金で購入しました。

2月17日に久慈翔北高等学校3年生の稲葉大歩さん、2年生の石原菊太郎さん、小笠原椿さんが図書館を訪れ、姉帯裕子館長に贈呈。稲葉さんは「市に貢献したいと本の寄付を選びました。若い人に図書館に親しんでほしいです」と期待しました。

INFORMATION

地域のニュースを伝える
広報リポーターを募集

イベントや地域の行事などを取材する広報リポーターを募集します。取材・編集した記事は毎月1回を目安に、広報くじに掲載します。

▶**応募資格**…令和8年4月1日現在満18歳以上で市内に在住し、撮影用デジタルカメラを持っている人

▶**募集人数**…3人。原則、担当する地区が被らないように選出します。

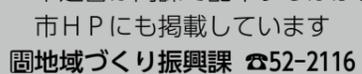
▶**活動期間**…令和9年3月31日まで

▶**事務経費**…年額1万2千円

▶**応募方法**…3月19日(木)までに、申込書を市役所2階地域づくり振興課に提出してください

※申込書は同課で配布するほか、市HPにも掲載しています

▶**問合せ**…地域づくり振興課 ☎52-2116



令和8年4月からこども誰でも通園制度が始まります！

INFO

園こども家庭センター ☎52-2169

利用方法

- ①元気の泉内こども家庭センターに利用登録（3月9日(月)から受け付けを開始します）
 - ②利用希望施設に初回面談申し込み、面談
 - ③利用予約
 - ④利用
- ※始めて利用する人は、利用希望日の2週間前までにこども家庭センターへ利用登録申請が必要です
- ※初回面談申込と利用予約は「こども誰でも通園制度総合支援システム」から手続きができます



保護者の理由を問わず、月10時間を上限として、時間単位で保育施設を利用できます。同年代の子どもの交流や保護者のリフレッシュの機会などに気軽に利用ください。実施施設など詳しくはHPを確認ください。

▼**対象**…次の①～③のすべてに該当する子ども

- ①市内に住所がある
- ②生後6カ月～3歳の誕生日の前々日まで
- ③保育所などを利用していない
- ▼**利用時間**…月10時間まで、1時間単位で利用できます
- ▼**利用料金**…施設により異なります（おやつ代などの実費徴収あり）

心と体のケアを続けるための自立支援医療制度

INFO

園社会福祉課 ☎52-2119

精神通院医療を利用している人へ

令和8年4月から受給者証の更新のお知らせは送付しません

受給者証の有効期限は1年で、毎年更新手続きが必要です。対象の人にお送りしていた、有効期限3カ月前の更新手続き案内通知を終了します。今後は受給者証の有効期限を自身で確認し、期限が切れる前に手続きしてください。新しい受給者証が届くまでに、2、3カ月かかりますので、早めに手続きください。

▶**手続きできる期間**…有効期限の3カ月前から

▶**必要書類**…

- ①お持ちの受給者証
- ②マイナンバーカード
- ③資格情報のお知らせまたは資格確認書
- ④申請書・同意書（窓口にあります）
- ⑤医師の診断書（2年に1回提出。用紙は窓口で渡します）

心身の障がいの治療や精神疾患の継続的な通院が必要な人のために、医療費の自己負担を軽減する制度があります。制度を利用すると、健康保険で診療を受けた時の医療費の負担が1割になります。

対象となるのは、大きく分けて3つの医療です。各医療ごとに、申請書や医師の意見書などの提出が必要になります。新たに制度を利用したい人は問い合わせください。

■育成医療

▼**対象**…18歳未満の子どもで、手術などにより、障がいや疾患の治療効果が期待できる場合



■精神通院医療

▼**対象**…うつ病、統合失調症、認知症、てんかんなどで継続的な通院が必要と判断された場合（薬局、デイケアを含む）



■更生医療

▼**対象**…身体障害者手帳をお持ちの18歳以上の人で、手術などで治療効果が期待できる場合



▼**主な対象医療**…視覚・聴覚・言語障害、肢体不自由、内臓などの内部障害

地域と歩んだ久慈のラジオ番組が最終回へ

NEWS

エムエム岩手「くじいくじ〜くちょぺっと」が放送終了



約15年パーソナリティを務めてきた八重櫻さん

久慈市の情報を届けてきた、エフエムいわての番組「くじいくじ〜くちょぺっと」が、3月30日の放送で、惜しまれつつも約15年半の歴史に幕を下ろします。同番組はエフエムいわて開局25周年「ふるさと元気隊」の企画で、平成22年10月に生放送の1時間番組としてスタート。平成29年から現在の「くじいくじ〜く

メッセージを募集

「くじいくじ〜くちょぺっと」にリニューアルし、市民の声や地域のイベントを県内に届けてきました。番組パーソナリティの八重櫻真一さんは「少しは久慈市を知ってもらうことに貢献できたのかなと思います。番組に協力、出演いただいた市民の皆さんに感謝しかありません」と15年を振り返りました。

番組では、リスナーからのメッセージを募集中。3月30日の放送で紹介する予定です。

▼**応募期限**…3月25日(水)

▼**応募方法**…エフエムいわてHPの番組ページのリンクエドフォームまたはメールで送付。kujii@fmii.co.jp

※ラジオネームを忘れないでください



震災の教訓と台風想定で防災を学ぶ

NEWS

復興・防災講演会

2月10日、宇部中学校で復興・防災講演会が開催されました。県立図書館の森本晋也館長が、東日本大震災で自宅に一人いた児童が迷わず避難し命を守った例や、「物は持つな」と声を掛け合い高台へ駆け上がった中学生の行動を紹介。自分の命は自分で守る大切さを訴えました。

後半は台風接近を想定し、持ち出し品や連絡手段、避難のタイミングをグループで検討。模造紙にまとめ発表しました。3年生の上戸鎖由奈さん



グループで検討した内容を発表する生徒

水災対応の迅速化に向け協定

NEWS

三井住友海上火災保険株式会社との協定締結式



協定書を掲げる木下支店長と遠藤市長

2月3日、市は三井住友海上火災保険株式会社と水災時の損害調査結果の提供、利用について協定を締結しました。協定は水災が発生した際に、同社が保険の支払いのために実施する損害調査の、物件情報や浸水深などの情報を市に提供いただくものです。水災時、市でも同様に被害認定の調査を行い、罹災証明を発行しています。同社の情報を活用することで調査が1度で済み、罹災証明発行の迅速化や被災者の負担軽減につながります。同社と自治体の取り組みは県内で初めてです。

同社岩手支店の木下大介支店長は「協定は被災した人が1日でも早く生活の再建を進める内容。久慈市の笑顔あふれるまちづくりに貢献していきたいです」と語りました。